

クラス番号	904	担当教員名	野村 あすか
テーマ	特別なニーズのある子どもとその家族への支援について考える		

ゼミナール概要

【目的、内容、方法等】

保育や教育の現場においては、何らかの障害のある子どもたち、または障害を明確に指摘されていなくとも行動面や発達面等で特別なニーズのある子どもたちが、一般の子どもたちとともに生活しています。こうした特別なニーズのある子どもたちやその家族が、困難を抱えながらも希望を持ちながら日々過ごしていくために、支援者側にはどのようなかかわりが求められるのか、課題が尽きることはありません。

さらに、こうした子どもたちは、保育や教育の場だけではなく、医療機関、市町村の保健センター、療育センター等の各種相談機関とかかわりながら支援されている場合が多くあります。地域の専門機関を知り、そこで働くさまざまな専門家の専門性を理解しておくことは、個々のニーズに応じた機関への紹介ができるという強みとなり、子どもとその家族に安心感を与えることにもつながります。

このゼミでは、特別なニーズのある子どもとその家族の「生活」や「こころ」に触れるとともに、子どもや家族を取り巻くさまざまな支援機関について幅広く理解していきます。そして、今後求められる支援のあり方について、自分なりの見方や考え方を持てるようになることを目指します。

【授業計画】

<前期>

◆ 文献の講読

特別なニーズのある子どもとその家族について理解するとともに、子どもと家族への支援の現状についても理解することを目的として、文献や資料を読み進めます。文献収集の仕方、レジュメの作成の仕方、発表やディスカッションの仕方等についても学びます。

<後期>

◆ グループごとにテーマを設定し、フィールドワークを実施する

自分自身の興味関心や、前期の文献講読で学んだことに基づき、特別なニーズのある子どもとその家族への支援にかかわるテーマを小グループで設定します。再度、文献収集・講読によりテーマにかかわる問題意識を明確にし、調査方法（質問紙、インタビューなど）についても学んだうえで決定します。そして、テーマに関連したフィールドに出向き、子どもとその家族への支援の現状を明らかにし、今後求められる支援のあり方について考察します。対象とするフィールドについては、保育所、小学校、地域の療育機関や自閉症協会等を検討していますが、できる限りみなさんの関心に沿うように考えていきたいと思っています。

担当教員からのメッセージ



みなさん、はじめまして。私は2016年度より着任しますので、今、この演習概要を見てくださっているみなさんと同じように、期待と不安の入り混じった気持ちで新年度を待っています。専門は、保育や福祉の分野とも関連の深い領域である臨床心理学であり、臨床心理士の資格を持っています。これまでは、大学にて子どものメンタルヘルスなどにかかわる研究を続ける傍ら、保育園の巡回指導員や小学校の心の相談員（スクールカウンセラー）として、知的障害や発達障害など何らかの支援ニーズのある子どもやその保護者、そしてさまざまな支援者の方々とかかわってきました。目の前にいる方の「こころ」を丁寧に理解しようと努め、真摯にかかわり続けるという姿勢がいかに重要であるかを日々実感していますが、それはどの対人援助職にとっても共通することなのかもしれません。

ゼミでは、みなさんの興味関心に触れられること、互いに学び合えること、そして新たな可能性を発見していけることを楽しみにしています。